# 環境経営レポート



対象期間 平成 30 年 10 月~令和元年 9 月



全ては幸せになる為 豊かな地域づくりに貢献する



野原建設株式会社

RA 発行:令和 2年 1月 30日



# ~ 目次 ~

<b>♦</b> 2'	挨	拶				 	 	Pa.2
<b>◆</b> 会	社	概要	į			 	 	Pa.3
◆環	境経	営方針	Ȇ			 	 	Pa.4
◆ 実	施	体 制	J			 	 	Pa.5
◆ 環	境経	営目村	票〈中長期目	]標〉		 	 	Pa.6
			票とその実績 10 月~令種		>	 	 	Pa.7
◆環	境経	営計画	画の内容・月	収組結果の	評価	 	 	Pa.8
◆ 次	年度	経営記	計画			 	 	Pa.14
◆ 建	設業	に関え	わる主な関	<b>連法規</b>		 	 	-Pa.15
◆ 代	表者	· による	る全体の評価	西と見直し	の結果-	 	 	-Pa.16



## ご挨拶

現在、環境問題は早急な対応が必要とされ、地球温暖化、森林破壊、海洋汚染、オゾン層破壊など、個人レベルでの取り組みでは容易に解決できない状況に陥っています。会社全体でエコアクション21に取組むことにより、社員ひとりひとりが様々な問題の現状を認識するようになりました。

また、環境マネジメントシステムを理解することにより、環境問題を企業の経営に関連付けて考え、環境保全への取り組みに着手していくための道標にしたいと考えています。そして、日々の仕事の中という一番身近な所から「持続可能な社会」への取り組みを考えて行動ができる資質を、社員ひとりひとりが身に付けていけたらと願っています。

社員一丸となってアクションしていくことで、環境に与える悪影響が少ない社会へ向けての新たな行動を起こすきっかけとしていきたいです。さらに、実践を積み重ねていく上で、効果的なアクションについても発信し、一企業として、ミニマムインパクトを紹介していきたいと考えます。

野原建設は標高 750mの自然豊かな山間の地に生まれ、地域の方々に愛されながら 100 年の歴史を歩んできました。自然環境なくしてこの地域はなく、地域なくして野原建設はありません。このことを社員全員がしっかりと胸に刻み、一歩一歩着実に環境経営に取り組んでいけたらと願っています。

野原建設株式会社 代表取締役 野原 一司







## 会社概要

### 【名称及び代表者名】

野原建設株式会社 代表取締役 野原 一司

### 【所在地】

**T**939-2513

富山県南砺市利賀村上百瀬 165

連絡先 TEL 0763-68-2136

FAX 0763-68-2608

E-mail: toga-nk@p1.tst.ne.jp

H P: https://www.toga-nk.jp/

#### 【環境管理責任者及び担当者】

環境管理責任者 野原 修実環境事務担当者 野原 沙也香



#### 【事業内容】

【特定建設業】土木工事業、とび・土工工事業、水道施設工事業、解体工事業

【一般建設業】建築工事業、菅工事業、塗装工事業、

#### 【事業規模】

創業	大正3年8月1日	設 立	昭和52年12月17日	
資本金	2100万円	売上高	535 百万円 (H31 年度)	
従業員数	19 名	事業所/倉庫床面積	282 m² / 484 m²	

#### 【認証・登録対象範囲】 全組織・全活動が認証対象範囲とする

	野原建設株式会社
事業所名及び所在地	〒939-2513
	富山県南砺市利賀村上百瀬 165
対象事業所	本 社
活動	建設工事業(一般土木工事、建築工事、道路除雪作業)



## 環境経営方針

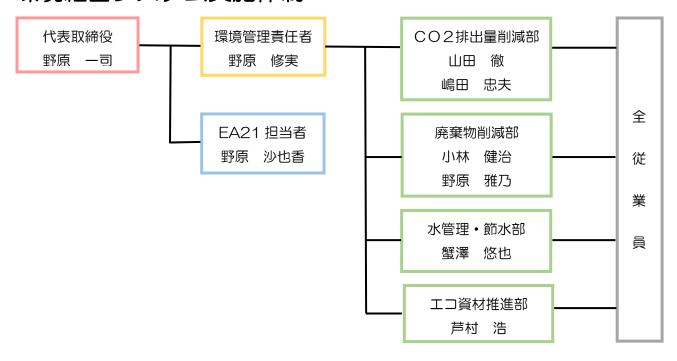
- (1) 当社の事業活動に関連する環境関連法規を定期的に確認し、社会的要求事項を順守し、発注者並びに利賀地域の自治振興会との協調連帯を図ります。
- (2) 環境経営方針達成を目指し、環境経営目標・環境経営計画を策定し、全社一丸となって利賀地域の環境保全活動の推進に努めます。
- (3) 全従業員のみならず関係者一同が理解・行動できるよう、環境経営方針の周知に努め環境教育や啓発に力を注ぎます。
- (4) 以下の項目について取り組みます。
- ① 二酸化炭素排出量の削減
- ② 廃棄物排出量の削減
- ③ 総排水量の削減
- ④ 自らが施工・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善
- (5) 環境経営レポートを社内外に公表し、地域社会の一員として社会貢献活動を積極的に推進します。

平成 31 年 4 月 30 日改定 野原建設株式会社 代表取締役 野原 一司





## 環境経営システム実施体制



役職	氏名	役割・責任・権限
代表取締役	野原一司	・環境経営に関する統括責任 ・環境管理責任者、環境事務局員を任命する ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員の周知 ・EA21 全体の取組状況に関し、評価・見直しを実施する
環境管理責任者	野原修実	<ul><li>・EA21の要求事項を満たす環境経営システムを構築、実行し環境実績を向上させる</li><li>・環境経営計画書の承認</li><li>・環境経営の取組結果を代表者へ報告</li></ul>
EA21 担当者	野原 沙也香	<ul><li>・環境管理責任者の補佐</li><li>・環境経営計画書の作成及び実績集計</li><li>・環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li></ul>
部門長	<ul><li>嶋田 忠夫</li><li>小林 健治</li><li>山田 徹</li><li>蟹澤 悠也</li><li>芦村 浩</li><li>野原 雅乃</li></ul>	<ul> <li>自部門における環境方針の周知</li> <li>自部門に関連する環境経営目標、環境経営計画の実施及び達成 状況の報告</li> <li>特定された項目の書類作成及び運用管理</li> <li>自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>自部門の問題点の発見、是正、予防処置</li> </ul>
全従業員	各自	<ul><li>環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚</li><li>実施事項を守り、自主的・積極的に環境経営へ参加</li></ul>



## 環境経営目標〈中長期目標〉

項目		単位	H31年度目標	R2年度目標	R3年度目標
	CO <sup>2</sup> 総排出	kg	310,486		
二酸化炭素	電気使用量	kwh	5,820	H31 年度目標維持管理	
排出量削減	ガソリン使用量	Q	19,137		
	除雪高に対する CO <sup>2</sup> 排出量(軽油)	kg/ 百万円	2326.2		
廃棄物排出量削減 (可燃ゴミ)		kg	116.51	124.11	107.99
産業廃棄物リサイクル率		%	100	100	100
総排水量削減 (5月~11月)		m³	44 43 45		45
	販売・提供する製品の 上及びサービスの改善	%	エコ資材(RC	現場で使用する	率 50%以上

(目標設定における維持は過去5年の平均値を目標値とし、+5%までを許容範囲とし、 削減は過去5年の平均値を目標値とし、目標値以内の使用量・排出量を目指す)



## 環境経営目標とその実績

項目			単位	H21 実績	H31目標	H31 実績	H31 達成率
	1.CO2 総排出		kg	296,391	310,486	321,796	99%
二酸化炭素	2.電気使用量		kwh	7,093	5,820	6,094	96%
排出量削減	3.ガソリン使用量		Q	23,808	19,137	19,590	98%
	4.除雪高に対する CO2排出量(軽油)		kg/ 百万円	3713.3	2326.2	1959	119%
廃棄物排出量	5.可燃ゴミ		kg	224.85	116.51	148.34	79%
<b>用果彻排山里</b>	.611 <i>11</i> 94	6.産業廃棄物リサイクル	%	1	100	100	100%
7.総排水量削減 (5月~11月)			m³	49	44	32	133%
8.工口資材(日		)購入率	%	1	50	50.5	101%

エコアクションの活動継続に伴い更なる削減が難しくなってきており、 過去5年間の平均を目標値に設定し、低排出レベルの維持に取り組む。



### 【上記目標に対する評価・総括】

今期は、目標達成まであと一歩というところまで管理を行うことができました。しかし目標達成に至っていない為、前年同様に意識して取組んでいくことが必要です。とくに廃棄物排出量については年々増加傾向にある為、徹底して削減していく必要があります。今後も達成出来ている項目は継続して取組み、全ての目標を達成できるよう社員一丸となって活動を推進していきたいです。



## 環境経営活動計画の内容・取組結果の評価

1. 二酸化炭素排出量の把握と低排出レベルの維持及び管理 【二酸化炭素排出量の削減取組】

> ウォームビズの推奨 クールビズの推奨

暖房温度 20℃設定冷房温度 28℃設定

電気部門

電源をこまめに消す

帰宅時電化製品の消灯確認 (チェックシート)



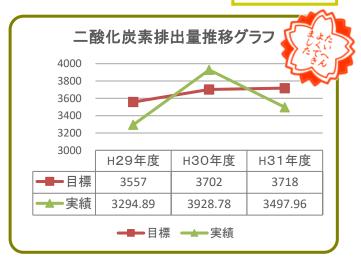
未来のために、いま選ぼう。



高めました。
を付けて会社全体の意識を設定温度を明記したポップ

#### 【取組の結果と評価及び次年度の取組】





## 【取組の結果】

今年度は、累計電気使用量が目標値より約4%上回っているが、維持管理としての許容範囲内である5%以内に止めることが出来た為、目標達成という結果になりました。そして新たな取組として、エコ性能が高い家電製品の購入に伴い、地球温暖化対策の為の国民運動を行うCool Choice(クールチョイス)に今年の4月に賛同登録を行うことでより節電意識を高めることが出来ました。

### 【評価及び次年度の取組】

設備の増設による使用料の増加についてはやむを得ないが、次年度は増加分を考慮した目標の策定と、引き続きチェックシートの運用・冷暖房設備のこまめな調節を心掛けるように、社員の意識向上に努めていく必要があります。



### 1. 二酸化炭素排出量の把握と低排出レベルの維持及び管理

### 【二酸化炭素排出量の削減取組】

3ヶ月毎の燃費の報告

不必要な アイドリングの削減

乗り合わせに努める

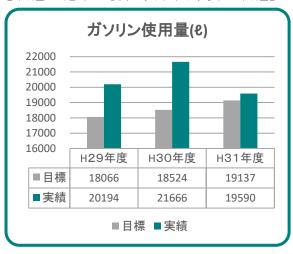
急発進・急停車の廃止

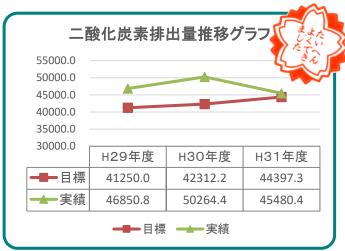


社員全員の目につくように1階休憩・ 工事室に燃費報告の掲示板及びポスターの設置を行いました。



### 【取組の結果と評価及び次年度の取組】





北陸電力調整後排出係数: 0.574

#### 【取組の結果】

今年度は、累計ガソリン使用量が目標値より約2%上回っているが、維持管理としての許容範囲内である5%以内に止めることが出来た為、目標達成という結果になりました。また前年度と比べ、約-10%使用量を削減することが出来、会社全体で意識して取組めていたと思います。

#### 【評価及び次年度の取組】

仕事量の増減で使用量が変化するのはやむを得ないが、社員のエコ意識はかなり浸透しているように思います。次年度も引き続き各車両の燃費チェック等で、社内のエコ意識向上が低下しないよう社内会議等の際に声掛けを行っていきたいです。



## 1. 二酸化炭素排出量の把握と低排出レベルの維持及び管理

### 【二酸化炭素排出量の削減取組】

工事での重機作用時間を 管理する

静かな運転に努める

空吹かしを最小限にする

低燃費・低排出型 車両への移行





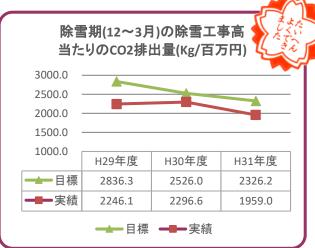
軽油部門



給油量記入表の活用

## 【取組の結果と評価及び次年度の取組】





※工事の件数・規模に応じて変動が激しい為、作業量に応じて工事高が変動する比較しやすい除雪期 (12月~3月年間軽油使用量の50%以上を占める)の除雪工事高当たりのCO2排出量で評価します。 【取組の結果】

今年度の除雪工事高当たりの CO<sup>2</sup>排出量は、基準年度から比べ約-47%、目標値より約-15%となり目標を達成することが出来ました。オペレーター全体で燃費報告を積極的に行い、エコ運転を継続出来ているとわかる結果となりました。

#### 【評価及び次年度の取組】

仕事量の増減で使用量が変化するのはやむを得ないが、社員のエコ意識はかなり浸透しているようです。次年度も引き続き、各ディーゼル車両の燃費チェックや、作業機械のエコ運転を通して、意識向上を図っていきたいです。



### 2. 廃棄物排出量の削減(可燃ごみ)

#### 【廃棄物排出量の削減取組】

混合廃棄物コンテナへの ゴミ分別呼びかけ

> 記録用やメモに 裏紙を利用

印刷ミス低減に努める 可燃ゴミ

可燃ごみ排出時に重量を計測し

廃棄量を可視化

印刷プレビューの確認を徹底し

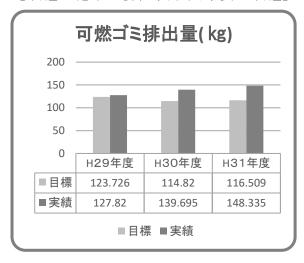


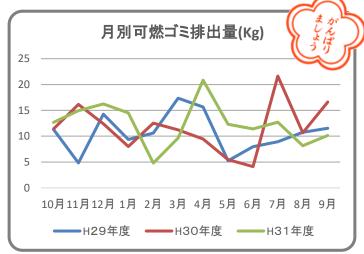
資源ゴミは分別・計量し 回収場所へ!

ポップを付けて、裏紙の 利用を強化しました。



## 【取組の結果と評価及び次年度の取組】





産業廃棄物	目標	H29 年度	H30 年度	H31 年度
リサイクル率	100%	99.89%	100%	100%

#### 【取組の結果】

今年度は、目標を達成することが出来ず、目標値を約27%上回る結果となりました。継続して裏紙の利用や廃棄量を可視化してはいたものの、用紙の廃棄量及び今回社内冷蔵庫からの飲食物の廃棄量が多く、今まで注視していなかったところから多くのゴミを出してしまいました。

#### 【評価及び次年度の取組】

コピーや試し刷りの裏紙使用等が徹底してなかったように思われます。次年度は今一度、コピー機の印刷ミス等印刷前のチェックと裏紙印刷の有効利用を会社に周知していくことが必要だと思います。



水

## 3. 水使用量の把握と節水努力の維持及び管理

【水使用量の削減取組】

節水の意識推進 (閉栓チェックリストの運用)

事務所での水使用量の把握

植木への散水は 湧き水を利用する

水道管破損による漏水の確認



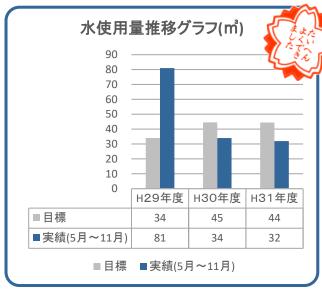
POP を水道近くに設置し見える化で節水意識を高める

道

漏水していないかチェック!



#### 【取組の結果と評価及び次年度の取組】





※12月~4月は水道凍結防止の為、排水を常時行うので実績に反映されません。

## 【取組の結果】

今年度は、非凍結期間の水使用量目標値を約-27%下回り、目標を達成することが出来ました。前年と比べ、会社全体で意識して水栓の閉め忘れなどに気を付けることが出来ました。

### 【評価及び次年度の取組】

水道量に関しては、直接仕事量にとはリンクしないので節約の結果がしっかりと出てきています。次年度も継続して節水の意識向上に努めていきたいです。



### 4. 環境負荷の少ない建築資材の率先使用

エコ資材の使用を把握する

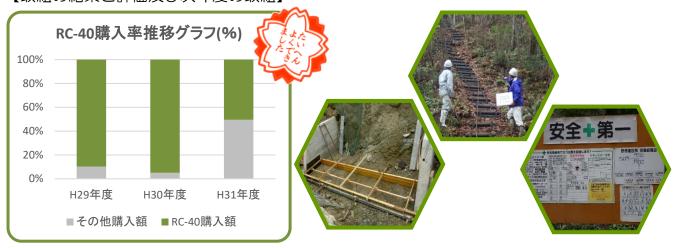
エコ資材

現場で使用可能なエコ資材の周知

RC-40 の率先利用 (コンクリート廃材再利用骨材)

エコ資材の率先購入に努める

【取組の結果と評価及び次年度の取組】



## その他エコ資材

資材名	エコマーク認定番号	再生材利用率	利用状況
面木	06131017	再生プラスチック 78%以上	型枠組立時に通常利用
サンドガード	06105002	再生 PET 繊維 80%以上	フトンカゴ等に利用
ユニット標識 エコユニボード	07118031	   再生 PET 繊維 50%以上	工事看板に利用
リサイクル スノーポール		ポリエチレン樹脂 (支柱部にリサイクル材使用)	除雪の目印に利用
プラ擬木	07131003	再生プラスチック 80%以上	金剛堂山登山山道整備工
ノノ採べ	07131002	再生プラスチック 70%以上	事に利用
ライナープレート		再生ポリプロピレン樹脂	自由勾配側溝、大型ブロック高さ調整に利用

※工事の件数・規模内容によって大きく変動する為、継続的な購入を目的とし評価します。

## 【取組の結果】

今期は前年と比べ工事内容により購入率が約50%と半減してしまったが、工事がない1、2月を除いて RC-40を率先的に利用できています。今後も継続して利用していきたいです。

#### 【評価及び次年度の取組】

RC-40 の利用率が高かったのは評価できます。次年度は、他の土木製品のエコに関する情報を出来るだけ入手し、エコ資材の率先利用を進めていきたいです。



## 次年度活動計画

環境方針	対象	目標	目標達成手段	目標値
二酸化岩	電気	CO2排出量の維持管理 (※)	<ul><li>・暖房 20 度 冷房 28 度設定</li><li>・ウォームビズの推奨</li><li>・電源チェックシートの 運用</li></ul>	年間使用量 5,828(kwh)
一酸化炭素排出量の削減	ガソリン	CO2 排出量の維持管理 (※)	<ul><li>・急発進・急停車の廃止</li><li>・不要なアイドリング削減</li><li>・車両の燃費を把握</li></ul>	年間使用量 19,392(ℓ)
減	軽油	冬季の除雪工事高の CO2 排出量維持管理 (※)	<ul><li>・エコ運転に努める</li><li>・低燃費、低排出型</li><li>車両への移行</li><li>・給油量の報告</li></ul>	除雪工事高あたりの CO2 排出量 2147.5(kg/百万円)
廃棄物廃棄量の削減	可燃ゴミ	可燃ゴミの排出量の 削減(※)	<ul><li>・社内、現場のゴミ分別推奨 (資源・可燃)</li><li>・裏紙、両面印刷の徹底</li><li>・廃棄量の把握</li></ul>	年間排出量 124(kg)
量の削減	産業廃棄物	産業廃棄物のリサイク ル率維持管理	・現場廃棄物の分別の徹底	リサイクル率 100%
総排水量の削減	水道	凍結期間を除いた 水使用量の維持管理(※)	<ul><li>・水道量の把握及び</li><li>チェックシートの運用</li><li>・湧水の利用(植木への散水等に使用)</li><li>※非凍結期間のみとする</li></ul>	水使用量(非凍結期間) 43(㎡)
及びサービスの改善る製品の環境性能の向上自らが施工・販売・提供す	エコ資材	エコ資材の率先購入 (購入率 50%以上)	<ul><li>・エコ資材の把握</li><li>・エコ資材の率先購入</li><li>・現場での使用可能なエコ 資材の周知</li><li>・RC-40の率先利用</li></ul>	購入率 50%

※(目標設定における維持は過去5年の平均値を目標値とし、+5%までを許容範囲とし、 削減は過去5年の平均値を目標値とし、目標値以内の使用量・排出量を目指す)



## 建設業に関わる主な関連法規等

環境法規制等の名称/略称	該当する活動	評価
環境基本法	自然環境の保全措置	0
グリーン購入法	環境物品購入	0
地球温暖化対策推進に関する法律	温室効果ガス排出の抑制	0
環境配慮事業促進法	事業活動に係る環境情報の提供	0
廃棄物処理法	廃棄物処理委託契約、許可証の確認、	0
<b>冼</b> 亲初处连丛	マニュフェストの保存義務	O
リサイクル法	建設副産物の再利用、再資源化促進	0
建設リサイクル法	分別解体、再資源化促進	0
家電リサイクル法	特定家庭用機器の適正処分	0
オフロード法	基準適正機械の利用	0
消防法(危政令)	第2石油類軽油等:2000L タンクローリーの保管	0
富山県景観条例	事業活動を通じて地域の景観づくりに寄与	0
南砺市廃棄物の減量及び	廃棄物の適正処理	$\circ$
適正処理に関する条例	光来物以旭上处注	O
特記仕様書	特記仕様書に準ずる	0

弊社は、建設業に係る環境関連法規(富山県や南砺市の条例も含む)について すべての適正法令を遵守しており、訴訟もありません。



## 代表者による全体の評価と見直しの結果

対象	変更の有無	評価
環境方針	□有/■無	今後も環境方針は変えずに取り組んでいく。
		ほとんどの活動が目標の限界に来ていることは承知してい
目標計画	□有/■無	る。その中で維持していくことが大切だと考えます。変化
		の大きい自然環境の中で、今後も冷静に対応してほしい。
中华大型	<b>■</b> 左 /□無	高齢部門長には取り組み開始から頑張っていただいた為、
実施体制	■有/□無	交代時期だと考えます。
スの出	□左 /■無	今後も外内部コミュニケーションを大事にして、環境経営
その他	□有/■無	に取り組む。

## 代表者による全体総括

社員意識・教育も向上している。今年度は目標に達成できた活動とそうでない活動がありますが、今後も維持していくことを大切に取り組んでほしい。

環境活動を企業の経営に関連付けて考え、環境保全への取り組むことにより、地域、会社が良くなっていくと確信しています。日々の仕事の中でという一番身近な所から「持続可能な会社」への取り組みを考えて行動ができる資質を社員ひとりひとりが身につけていけたらと願っています。

自然環境なくしてこの地域はなく、地域なくして野原建設はありません。このことを社員全員がしっかりと胸に刻み、一歩一歩着実に環境経営に取り組んでいけたらと願っています。

野原建設株式会社 代表取締役 野原 一司

評価日:令和元年 12月 25日